

マラソン選手の栄光と悲劇的末路

大会前とにかく話題の多かったリオ・オリンピックも滞りなく幕を閉じた。日本選手による史上最多のメダル獲得の一方で、男女マラソンの不振ぶりがちょっと気になった。かつては、高橋尚子、野口みずき両選手による女子2大会連続金メダル獲得を始めとして、陸上競技ではマラソンこそが男女ともに日本が最も期待を寄せられる種目のひとつだった。

私には、東京五輪の金メダリスト・エチオピアのアベベ・ビキラ選手、及び銅メダリスト円谷幸吉選手の活躍と、2人の晩年の悲劇的イメージがとりわけ印象深い。東京大会では、残業中に会社を抜け出して甲州街道で力走する両選手に声を振り絞って声援を送ったことも懐かしい思い出がある。

メキシコ五輪開催の年、1968年1月9日、私はエチオピアの首都アジスアベバのハイレ・セラシユ皇帝記念病院内で偶然と言うべきか、アベベ選手の甥に当たるひとりの学生と巡り会った。ひとしきりアベベ選手を話題に話し合った後、この際とばかり図々しくも彼に、当時メキシコ五輪で3連覇を期待されていたアベベ選手に何とか会うことはできないだろうかとお願ひしてみた。彼は私の強引な申し出を快く聞き入れてくれ、早速電話をしてくれたが、申し訳なさそうに伯父さんは生憎その時海外へ出かけているとのことで、残念ながらアベベ選手に会える千載一遇の願ひは叶わなかった。

そして日本へ帰ってから悲劇的な事件の顛末を知った。アベベ選手のライバル・円谷選手がメキシコ五輪を前に調子が上がらず、日本中の過大な期待に応えられそうもないことに苦悩して、両親に先立つ不孝をお許し下さいとの古典的で涙を誘う衝撃的な遺書を書き残して、ある日突然自らの命を絶ったのだ。しかもその日は、私がアベベ選手の甥に会っていた、まさに1月9日その日だった。あまりに偶然な時の一致に言葉もなかった。それから5年後アベベ選手も自動車事故の後遺症により41歳でこの世を去った。オリンピックのマラソン競技を思う都度、ドラマチックなアベベ選手と円谷選手の輝ける栄光と衝撃的な死が、脳裏に浮かび何とも切なく忘れることができない。